

3 - 4 1982年7月23日茨城県沖地震 (M 7.0) の長周期波形記録

Long Period Seismograms of the Earthquake off Ibaraki (M 7.0), July 23, 1982

北海道大学 理学部
Faculty of Science, Hokkaido University

北海道大学えりも地殻変動観測所で1982年7月23日の茨城県沖地震 ($M_{JMA} = 7.0$) とその最大余震 ($M_{JMA} = 6.2$) の長周期地震記録が得られた。

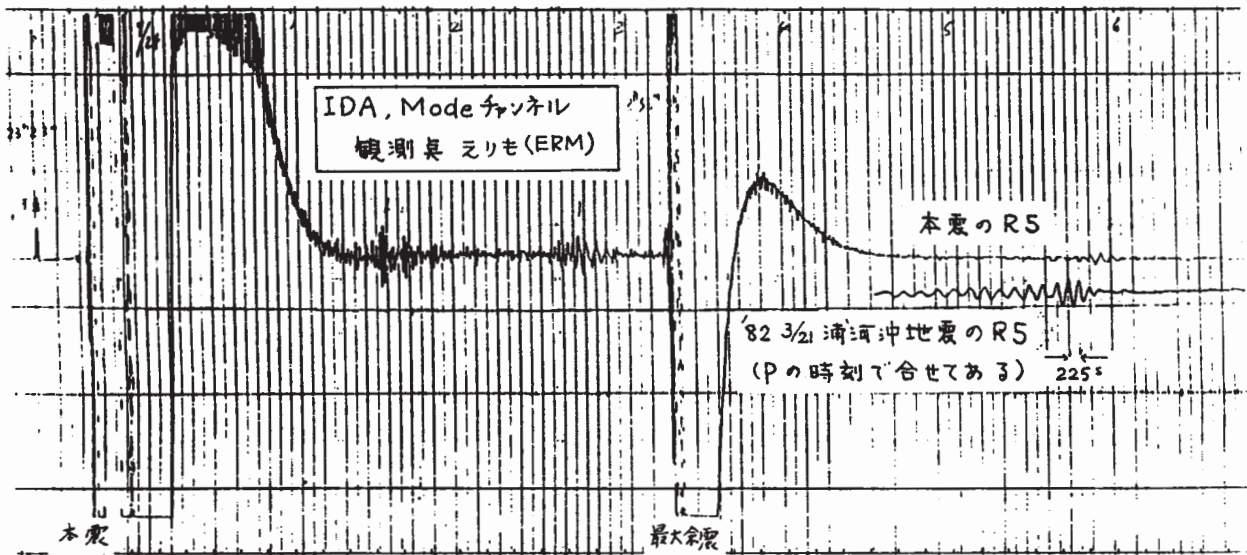
第1図はIDA¹⁾の記録である。比較のために、1982年3月21日の浦河沖地震 ($M_{JMA} = 7.1$) のR5の波もP波時刻で合せて示してある。

第2図は歪地震記録である。原記録では最大余震の振幅は本震の約 $\frac{1}{4}$ であるが、50秒のローパスフィルターを施すと、この比は約 $\frac{1}{10}$ になることがわかる。

以上の記録が地震規模の推定に役立つことを期待する。

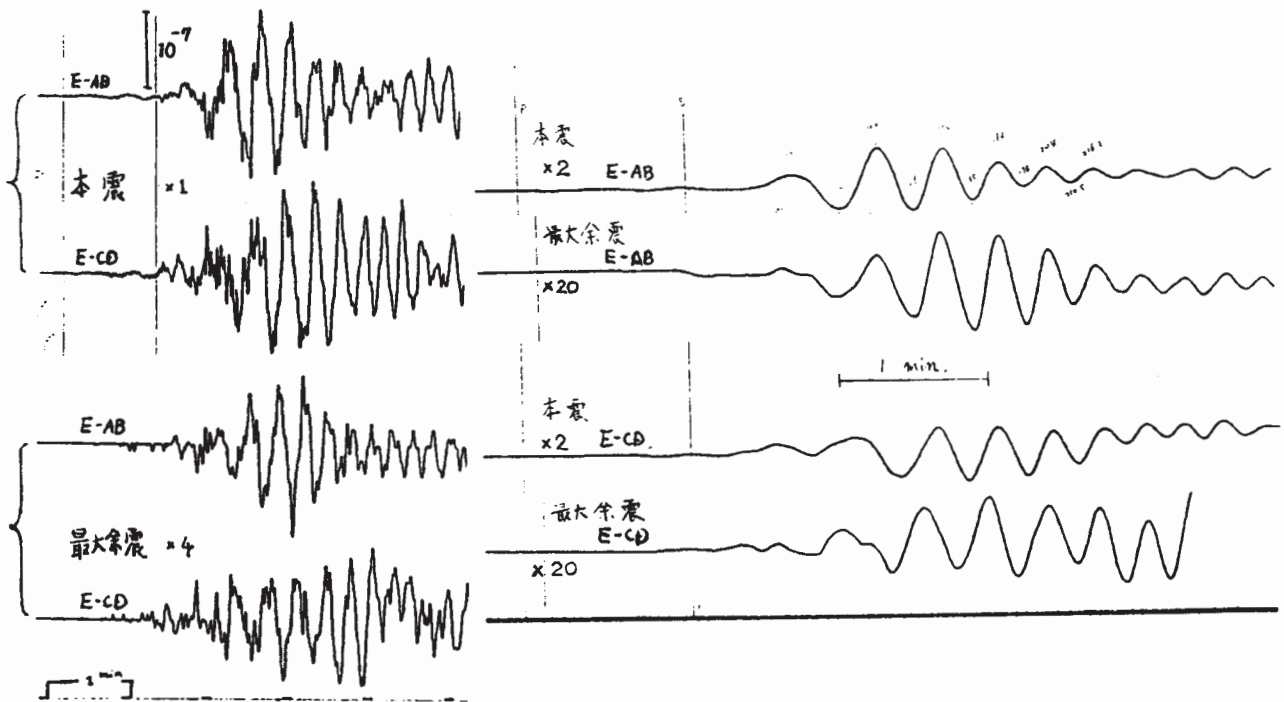
参 考 文 献

- 1) 阿部勝征・笠原 稔：日本におけるIDA観測の実施，地震学会講演予稿，2 (1980)，226.



第1図 IDA (国際加速度計観測網)による記録

Fig. 1 Seismogram by IDA system at Erimo Geophysical Observatory (ERM). Main shock of M7.0 (23h23m, July 23), the largest aftershock of M6.2 (02h53m, July 24) and R5 wave of the main shock are seen. For comparison, R5 of the Earthquake off Urakawa (M7.1) is also shown.



第2図 歪地震記録, 右は原記録(左)に50秒のローパスフィルターを施したもの。方位はE-ABが $N45^{\circ}W$, E-CDが $N45^{\circ}E$

Fig. 2 Strain seismograms at ERM. Left: original, main shock (upper two) and the largest aftershock (lower two). Right: 50 second low pass filtered, main shock (upper) and the largest aftershock (lower) in each component AB($N45^{\circ}W$) and CD($N45^{\circ}E$).